

．総合研究報告書（１）

HTLV-1キャリア相談支援体制整備に資するニーズの収集と

ATL患者支援体制の整備に関する研究（内丸グループ）

**HTLV-1キャリア相談支援体制整備に資するニーズの収集と
ATL患者支援体制の整備に関する研究**

グループ代表者 内丸 薫 東京大学医大大学院新領域創成科学研究科
病態医療科学分野 教授

平成**26**年度～平成**28**年度 総合研究報告書

研究要旨：

HTLV-1キャリアの現状とニーズを大規模に調査することを念頭に置いた**HTLV-1**キャリア自主登録システム「キャリねっと」の運用を行い、登録データの解析とともに献血判明キャリアの動向、妊婦検診判明キャリアに対する相談体制、保健所の現状、都道府県の支援体制の構築などについての検討を行った。その結果以下の問題点が明らかになり、これらの課題への対策を提言する。

HTLV-1キャリアには相談ニーズが確実に存在し、相談体制の確立が必要である。

相談対応のほとんどが血液内科病院で行われており、血液内科を念頭に置いた相談体制の構築が必要である。

血液内科病院の拠点化が必要であり、それらの対応施設と産婦人科、小児科、赤十字血液センター、保健所などをつなぐ組織的な連携体制の構築が必要である。

妊婦に対する授乳指導について、地域差、施設差が存在すると推定され、改めて授乳指導の現状について調査する必要がある。

分娩後の授乳指導体制が不十分であり、特に短期授乳、凍結母乳を選択した母親に対する支援体制が必要である。

キャリアマザーの児の抗体検査の体制について検討が必要である。

総合対策における保健所の位置づけを再検討する必要がある。**1**次相談窓口としての機能とそこから拠点病院へつなぐというのが一つの役割として想定される。

研究分担者

山野嘉久 聖マリアンナ医大 教授
岩永正子 長崎大学 教授
末岡榮三朗 佐賀大学 教授
齊藤 滋 富山大学 教授
森内浩幸 長崎大学 教授
渡邊清高 帝京大学 准教授
佐竹正博 日本赤十字社中央血液センター
所長

研究協力者

福井トシ子 日本看護協会 常任理事
柘植 薫 香川大学
高 起良 JR大阪鉄道病院 部長

A. 研究目的

先行する厚労科研(がん臨床 一般 **020**)
「**HTLV-1**キャリア・**ATL**患者に対する相談機能の強化と正しい知識の普及の促進」

(旧内丸班)における研究の結果、大都市圏を中心に**HTLV-1**感染症、関連疾患に関する情報ニーズは高いものの、**HTLV-1**総合対策でキャリア、**ATL**患者・家族に対する相談窓口として想定されている保健所、がん拠点病院相談支援センターの利用状況は低いこと、キャリア対応を行っている病院においても**40%**の施設では検査などのみで相談対応は不可としており、必ずしも外来受診者のニーズに対応できていない可能性があることなど、**HTLV-1**キャリア・**ATL**患者家族相談対応の問題点が指摘されたが、これらの研究は相談体制側を対象とした調査研究であり、キャリア・患者の実態に関するデータに乏しく、適切な相談体制の構築にはキャリア・患者の大規模データを収集することが不可欠である。

そこで本研究では1) **HTLV-1**キャリアの実態把握・ニーズの解明 2) 妊婦検診、献血の各視点からの検討 3) 保健所、がん拠点病院相談支援センターによる相談支援の実態把握・課題の解明の観点から分担研究者により分担して検討し、全体で検討を重ねることで現状の問題点を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1) **HTLV-1**キャリア自主登録ウェブサイト「キャリねっと」登録データの解析による

HTLV-1キャリア対策の現状と問題点

(内丸、山野、岩永)

本分担グループでは主に**HTLV-1**キャリアを対象に現状の調査を行うための自主登録ウェブサイトを構築し、その登録情報から**HTLV-1**キャリアの現状に関する大規模データを得ることとした。キャリアによる自主

登録システムとするため、登録を促進するためにシステムに必要な点について検討した。また、**HTLV-1**キャリアの現状の評価のためにどのような情報が必要かを検討し、登録時入力項目について検討した。これらをもとにウェブ制作会社に業務委託し、内容を検討しながらシステムの構築を行った。

2) 母子感染予防に関連したキャリねっと集計データ地域4ブロック別分析(齋藤、福井)

2016年10月13日に「キャリねっと」ウェブサイトより抽出した**261**名からの回答を解析した。なお、研修者は除いている。得られたデータを集積し地域として関東、近畿、九州・沖縄、その他の地域の**4**つの地域別に分析した。

3) **HTLV-1**母子感染対策協議会の設置ならびに活動状況に関する調査(齋藤、福井、森内、内丸、山野)

全国の都道府県に「**HTLV-1**母子感染対策協議会の設置及び活動状況に関する調査」を郵送法により行ない、回収後のデータを解析した。調査票を2014年11月17日に発送し、回収期限を2014年12月12日とし、2015年1月23日まで調査担当事務局に到着した調査票を基に解析した。同様の調査は2011年にも施行しているので、2011年と2014年の調査内容を比較検討し、改善点も評価した。

4) **HTLV-1**キャリア女性から生まれた子どものフォローアップの問題点(森内)

長崎県においては**HTLV-1**キャリアと確定した妊婦は全例登録され**1987**年開始当初は、キャリア女性から生まれた子どもは全例半年毎に小児科を受診してもらい、**3**歳まで

フォローしていた。**2008**年に事業内容は改訂され、子どものフォローは**3**歳になってからの抗体検査のみとなっている。**2012**年以降は板橋班研究がスタートし、全国画一的にキャリア女性から生まれてきた子どもをフォローし、**3**歳になって母子感染の有無を確認するまで定期的に受診してもらう体制が整えられた。長崎県においては長崎大学病院を基幹病院としてキャリア女性とその子どもの研究登録を行った。板橋班研究前後における子どものフォローアップの現状についてまとめた。

5) 献血より判明した**HTLV-1**キャリアの実態と今後の対策(佐竹)

献血により**HTLV-1**抗体陽性の通知を受け取り、日本赤十字社血液センターに問い合わせをしてきた献血者に対して、センターの説明・対応によって何が得られたか、何が不足していたかを設問としたアンケート用紙を全国の血液センターから送付した。献血者からの回答は無記名とし、日本赤十字社中央血液研究所で回収、研究分担者が結果を集計した。期間は**2014**年**9**月から**2015**年**8**月までの**1**年間とした。さらに九州ブロック血液センター管轄地域(九州地方一円、**2015**年**3**月より)と東京都血液センター管轄地域(都内の献血で判明した献血者、**2015**年**6**月より)の二地域において、血液センターに問い合わせをしなかった献血者を対象に同様のアンケート用紙を送付して回答を得た。ここでは、感染の通知を受け取ってから、相談や受診などに関してどのような行動をとったか、また取ろうとしているかについての質問を重視し、感染の通知の約**1**か月後にアンケート用紙を送付した。

6) 保健所におけるキャリア相談の現状と問題点(末岡)

保健所を一次相談窓口と想定した時の問題点を明らかにするとともに、地域の実情に応じた相談体制を提案し、実現に向けて体制を整えた。

7) 肝炎対策、希少がん対策における相談支援の現状および拠点機能を踏まえた**HTLV-1**、**ATL**に関する相談支援体制のあり方に関する検討(渡邊)

肝炎および希少がんにおける相談支援体制について分析を行い、拠点施設におけるキャリアおよび患者向けの情報提供・相談支援体制のあり方について検討を行った。

(倫理面への配慮)

ウェブ登録内容に個人情報収集されないが、施設研究倫理支援室への相談により、**HTLV-1**キャリアの不特定大規模調査にあたるため「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき倫理審査委員会の審査を受け平成**27**年**10**月**19**日に承認された(承認番号**27-36-1019**)。また業務委託したアクセライト株式会社には最大限のセキュリティ対策を求めるとともに、同社との間で秘密保持契約を締結した。

各課題に付いてはすべて個人情報を特定できる内容を含んでいないため倫理面での管理を有する問題は生じないと判断される。

C. 研究結果

1) **HTLV-1**キャリア自主登録ウェブサイト「キャリねっと」登録データの解析による**HTLV-1**キャリア対策の現状と問題点

(内丸、山野、岩永)

HTLV-1キャリア自主登録ウェブサイト「キャリアねっと」を構築し、平成**27**年**10**月**21**日より運用を開始した。トップページのイメージを図**1**に示す。トップページには研究代表者からのキャリアねっとの紹介と登録の呼びかけとともに、登録画面を含む各種機能へのウィンドウが設けられている。登録希望者は登録時に基本調査の回答を入力の上登録するが、入力には任意であり、回答したくない項目には入力しなくても登録が可能となっている。キャリアねっとでは**2**週間に**1**回程度、内丸班班員および**HTLV-1**関連領域の研究者、医療関係者によるリレーコラムが連載されており、**HTLV-1**キャリアに対する非常に有用な情報提供ツールの役割を果たしている（資料**1**）。また、アクセス登録者数はリアルタイムで集計されてトップページに表示され、登録者のデータは、特定の登録者のデータの組み合わせが特定されないよう週**1**回の集計としたうえで、登録会員は会員ページにログインして自由に集計データを閲覧することが可能となっている。会員ページにはその他問い合わせフォームがある。また、アンケート欄が準備されている。キャリアねっと登録者は情報収集のための貴重なキャリア集団であり、基本調査以外の項目について調査が必要になった時に、登録者を対象に追加調査の協力を求められるようになっている。

登録者はいつでも退会可能であり、会員ページから退会希望欄をクリックするだけで登録情報も含めて未梢される。平成**29**年**2**月**10**日現在で**303**名が登録しており順調に登録数を伸ばしている。平成**28**年**12**月までの登録者数の推移を図**2**に示す。また、アクセス解析の結果の一部を図**3**、**4**に示すが、やや

新規登録数が減少傾向であるものの、ページビューには大きな変化は見られず、登録者にはコラムなどを通じて一定の情報提供できていると推定される。

平成**28**年**12**月**16**日までに登録された**286**名を対象としたキャリアねっとの集計データを資料**2**に示す。登録者の居住地は関東地方在住者が全体の**41.6%**を占め、次いで近畿地方の**26.2%**、九州・沖縄地方の**23.7%**で、その他の地方は登録数は少なかった。キャリアと判明した経緯については妊婦健診と回答したのが**34.7%**、献血によると回答したのが**29.8%**、その他が**35.4%**と妊婦健診、献血、その他がそれぞれ約**1/3**ずつであった。

授乳法の指導内容については複数回答可とした設問に対して、短期授乳、凍結母乳の説明を受けたと回答したケースに比べて断乳を勧められたケースが**1.5~1.8**倍であり、断乳のみしか説明されていないキャリア妊婦がかなりいることが示唆された。それを反映して、授乳法を自分で決めるように言われた妊婦とほぼ同数の妊婦が断乳を勧められていた。授乳法を選択するに際し、説明は十分であったとする回答が**62.4%**であったが、地域差があり、九州・沖縄の**81.5%**に比して、その他の地域は**37.5-61.9%**に留まっていたため、全国的な指導をより進めていく事が必要と考えられる。また授乳法の選択についても地域別で若干の差があった。断乳が**50.0%**、短期母乳が**24.0%**、凍結母乳が**7.8%**であったが、厚生労働研究や日本産科婦人科学会で推奨していない短期母乳+凍結母乳が**5.6%**に行なわれていた。分娩後の授乳指導については、約半数の**49.5%**が指導を受け、残りの約半数は指導を受けなかったと回答しているが、指導を受けられなかった妊

婦のうちの 76.2%が分娩後の授乳指導が必要と回答していた。授乳指導を受けた妊婦のほとんどは産科医院で指導を受けたと回答した。子どもの抗体検査については実施した母親は 20.4%でしかなかったが、実施していない母親のうち 54.4%が検査を受けさせようと考えていて、検査を検討しているケースが 30.9%と、合わせて 85.3%は子供の検査を検討していることが判明した。

授乳法以外に自身がキャリアであることについての相談について実に **92.9%**が指導を受けたいと思ったと回答しており、そのうち **52.9%**が実際に相談に行っていた。相談に行った場所は圧倒的に血液内科病院であり、保健所に相談に行ったケースは血液内科病院の **10分の1**以下であった。また、がん拠点病院相談支援センターを訪れるケースも極めてまれであった。

献血で判明したキャリアを対象とした調査では、日赤の相談窓口で連絡をしたのは **29.4%**と比較的少なかったが、窓口で連絡したキャリアのうち **58.3%**がさらに別の施設を紹介されており、その紹介先はやはりほとんどが血液内科病院であった。日赤の相談窓口で連絡をしなかったグループのうち **48.3%**は、他の施設に相談に行きたいと思い、実際そのうち **86.2%**が別施設に相談に行っており、日赤の相談窓口で連絡をしなかったキャリアにも相談ニーズはあり、それらは直接血液内科に流れ込んでいると考えられた。

その他の理由でキャリアと判明した例は、約半数が、血縁者あるいは配偶者が**HTLV-1**感染者であることが判明したことがきっかけになり、他の理由で医療機関を受診した際に偶然判明したケースは**40.0%**であった。判明した施設での対応に**75%**は満足していた

が、**25.0%**のケースは満足しておらず、これらのケースの相談先はほぼ血液内科病院であった。

これらの調査結果には一部項目で地域差が明確であり、以下の事項において地域差が認められた。 **HTLV-1**感染判明後の医療機関通院割合(九州・沖縄地区で低い) 感染判明契機割合(九州・沖縄地区で妊婦検診の割合が高く、関東地方では献血の割合が高い)

妊婦の**HTLV-1**感染判明した妊娠週期(九州・沖縄地区でより早期) 分娩後に選択した授乳法(九州・沖縄地区で短期授乳が多い)

妊婦健診・献血以外でキャリアと判明した契機(九州・沖縄地区で他疾患で受診時が多い)また、わずかに有意差は出なかったが、上記の通り授乳指導に対する満足度にも地域差が見られた。岩永により分析された集計データの地域に関するデータを資料**3**に示す。

2)母子感染予防に関連したキャリアねっと集計データ地域4ブロック別分析(齋藤、福井)

母子感染予防に関連した項目のキャリアねっとデータの地域差について検討したところ、授乳法を選択するに際し、指導が十分であったとする回答は全国では62.4%であったが、九州・沖縄の81.5%に比して、その他の地域は37.5-61.9%に留まっていたため、全国的な指導をより進めていく事が必要と考えられる。授乳指導の均てん化のためにも改めて授乳指導の実態について調査することが必要と考えられた。

3)HTLV-1母子感染対策協議会の設置ならびに活動状況に関する調査(齋藤、福井、森内、内丸、山野)

2014年11月から2015年1月の調査実施の時期でまだ全国で10自治体で母子感染対協議会が未設置であった。その後いくつかの自治体では設置がなされたが、東京都などいまだに未設置の自治体がある。保健所の相談対応の実態を把握している自治体は28で、その相談件数を表1に示すが、保健所における相談は低調であることが改めてうかがわれた。また、協議会の構成員について表2に示すが、血液内科医が含まれているのは半数以下の16自治体であった。また、HTLV-1対策において必要な優先順位が高いものとして挙げられたものを表3に示すが、自治体と連携できる施設が最も重要視されており、拠点整備の必要性を強くうかがわせた。

4) HTLV-1キャリア女性から生まれた子どものフォローアップの問題点(森内)

長崎県におけるキャリアマザーの数、およびキャリアマザーからの児の抗体検査件数を表4、5に示す。年間100名程度の抗体陽性妊婦の診断数に対し、児の検査は年間20例程度と約5分の1にとどまると推定され、3歳になった時点でキャリアマザーの意識の中で児の抗体検査に関する意識が薄いことが推察された。

5) 献血より判明したHTLV-1キャリアの実態と今後の対策(佐竹)

平成26年9月から平成27年8月までの1年間における抗体陽性通知者からの日赤相談窓口への連絡状況について表6に示す。抗体陽性通知者のうち日赤の相談窓口へ連絡を取ったのは7.0%であった。九州地区の方が比率は低く4.8%であったのに対し、それ

以外の地域では8.9%であった。日赤の相談窓口へ連絡したキャリアに対するアンケート調査結果を資料4に、連絡をしてこなかった抗体陽性キャリアを対象としたアンケート調査の結果を資料5に示す。献血で判明したキャリアの半数は、説明をほぼ理解し、一応平常な生活を送っていると思われたが、一方「どうしたらいいかわからない」と「医療機関の受診が怖い」を合わせた29%の人々に適切な助言を与えることが重要であると考えられた。日赤に問い合わせたキャリア、医療機関を受診したキャリア、これから受診を検討しているキャリアを合わせると61%に達し、献血で判明したキャリアにも日赤の相談窓口、および医療機関における相談体制に対するニーズが存在すると考えられた。

6) 保健所におけるキャリア相談の現状と問題点(末岡)

キャリア対応には医学的な問題のみならず、社会医学的な側面など多彩な知識と経験を必要とすること、また、キャリアの側面の問題としてもHTLV-1に関する認知度の低さ、HIV感染との混同、相談窓口としての保健所を意識していないなどから、キャリア相談窓口を全国的に保健所に統一することについては問題が多いと考えられた。キャリアの比較的多い佐賀県においても、陽性者のカウンセリング実績がなく、特に妊婦に対する対応に関しては、キャリアである妊婦に対するカウンセリング、母乳育児に関する相談対応については、保健所のみでの対応は困難であり、医療機関との連携が必須であると考えられるが、連携のための実行組織として位置づけられる母子感

染対策協議会が活動していないこと、2次相談窓口としての医療機関側の対応も、地域や自治体ごとに異なるなど、医療機関との連携体制の構築が重要と考えられた。

7) 肝炎対策、希少がん対策における相談支援の現状および拠点機能を踏まえた **HTLV-1**、**ATL**に関する相談支援体制のあり方に関する検討(渡邊)

肝疾患診療連携拠点病院の機能と同様な機能を **HTLV-1** 領域の拠点病院に求めるとすれば以下のような機能が考えられた。

1) 診療の中核機能

血液内科・小児科・産婦人科・神経内科など、**HTLV-1** 関連疾患を総合的に診療できる医療機関として当該地域のさまざま機関と連携して診療を行う。

2) 教育・普及活動機能

HTLV-1、**ATL** 診療に関わる人材育成、地域住民、キャリア・患者への普及啓発

3) 受検・受診推進機能

検診からキャリア外来へのフロー、受検者数の増加

4) キャリア・患者向けフォローアップ支援機能

継続的なフォローアップと支援

D. 考察

本研究班では、先行研究班で課題となったキャリアの側の実態がわからないという問題を解決するために**HTLV-1**キャリア自主登録ウェブサイト「キャリねっと」の構築を

行い、その集計データをもとに本邦の**HTLV-1**キャリアおよびキャリア対策の現状について非常に貴重なデータを得ることができた。まず第一に重要な点は、これまでの調査で、保健所における相談件数が低調なことから**HTLV-1**キャリアの相談ニーズが低いのではないかという議論がなされていたが、特に妊婦においては授乳方法以外にも自身が**HTLV-1**キャリアであることに対する相談ニーズが極めて高いことが判明した点である。相談はほとんどが血液内科病院に寄せられており、したがって保健所における相談件数だけでは相談ニーズをとらえられないと考えられる。第二のポイントは、実態として血液内科が相談機能を担っていることであり、相談体制の確立のためには血液内科における相談体制を組織的に構築していく必要があるということである。妊婦キャリア対応の立場から研究した斎藤は、相談窓口を地域で作し、産婦人科医や小児科医からの紹介が必要と思われたと報告しており、上記の妊婦キャリアの相談ニーズを満たすためには地域ごとに対応施設を整備し周産期領域施設とつなぐことの重要性を指摘している。これは献血判明キャリアに関しても同様で、分担報告者の佐竹は血液センターからの通知・説明文書で一定の理解と満足は得られているものの、相談支援のニーズはあり、血液センターから直接対応可能施設を紹介すべきであろうと指摘している。この点は現状で必ずしも有効に機能していない保健所をどのように位置づけるかという観点からも重要な課題である。分担研究者の末岡は、総合対策における保健所の位置づけを検討し、1次窓口として保健所を位置付けた場合、その後の受け入れ医療機関の整備(基幹施設の

設置など)、キャリア相談内容に応じた機能的な連携体制の構築が必須だと考えられると報告している。都道府県調査においても、自治体と連携できる施設が最も重要視されており、拠点整備の必要性を強くうかがわせた。

これらの点を考慮すると、有効な相談支援体制のためには血液内科における**HTLV-1**対応拠点の整備が必要である。この際重要な点は、**HTLV-1**関連疾患の希少性に鑑み、実際に対応が可能な施設を組織化していくことであり、そのために**HTLV-1**キャリアコホート研究を続けている **JSPFAD (Joint Study on Prognostic Factors of ATL development)** に参加している全国**54**の施設をもとに拠点化を図るのも一つの方法として考えられてよい。

妊婦キャリア対応に関しては、授乳指導に関してもいくつかの問題点が浮かび上がっている。分担研究者の斎藤は、厚生労働特別班(齋藤班)において、断乳(人工乳)、凍結母乳、短期母乳の**3**つの栄養法につき、すべて説明した後に、キャリア自身で栄養法を選択する事を推奨していることをあげ、キャリアねっとの調査結果からは、現状ではすべてのキャリア妊婦が**3**つの栄養法すべてを説明受けているわけではなく、また自分の意志で栄養法を選択しているのは**54.8%**に留まっていたので、**3**つの栄養法を全て説明し、キャリアの自己決定による授乳法の選択を増やすようにすることが必要であろうと指摘している。また、授乳指導に対する満足度は地域差がまだかなりみられ、授乳法を選択するに際し、指導が十分であったとする回答は全国では**62.4%**であったが、九州・沖縄の**81.5%**に比して、その他の地域は**37.5-**

61.9%に留まっていたため、全国的な指導をより進めていく事が必要と考えられる。授乳指導の均てん化のためにも改めて授乳指導の実態について調査することが必要であろう。また 短期母乳や凍結母乳を選択した際は、分娩後も継続的な乳房管理が必要となるが、約半数しか分娩後の指導を受けていない事が判明した。これらの授乳法を選択したキャリアマザーの支援体制についてもさらに整備を進めていく必要がある。

子どもの抗体検査について、実際に抗体検査を行った母親は**20.4%**しかいなかったが、今後子供の抗体検査を検討している母親が、未検査の母親のうちの**85.3%**と潜在的なニーズは高いと思われる一方で、分担研究者の森内は、長崎県では抗体陽性マザーからの子どもの抗体検査が行われているのはおそらく**20%**程度、板橋班研究に参加している母親でも半数に満たないと推定されることを報告している。小児科から児のフォローアップについて積極的にかかわるべきかという点も含めて、キャリアマザーの児の抗体検査の体制をどのようにすべきかさらに検討の必要があると考えられる。

血液内科による**HTLV-1**相談体制の拠点化を行うことにより**HTLV-1**総合対策における保健所の新たな位置付けが改めて検討されるべきであり、拠点化に際しては肝疾患診療連携拠点病院が、その機能を考えるうえで参考になると考えられる。

E. 結論

3年間の本研究班の研究により、**HTLV-1**感染対策領域における現状の課題として以下の点が明らかになり、今後これらの点への対策を提言する。

HTLV-1キャリアには相談ニーズが確実に存在し、相談体制の確立が必要である。

相談対応のほとんどが血液内科病院で行われており、血液内科を念頭に置いた相談体制の構築が必要である。

血液内科病院の拠点化が必要であり、それらの対応施設と産婦人科、小児科、赤十字血液センター、保健所などをつなぐ組織的な連携体制の構築が必要である。

妊婦に対する授乳指導について、地域差、施設差が存在すると推定され、改めて授乳指導の現状について調査する必要がある。

分娩後の授乳指導体制が不十分であり、特に短期授乳、凍結母乳を選択した母親に対する支援体制が必要である。

キャリアマザーの児の抗体検査の体制について検討が必要である。

総合対策における保健所の位置づけを再検討する必要がある。1次相談窓口としての機能とそこから拠点病院へつなぐというのが一つの役割として想定される。

F. 健康危険情報

該当せず。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. **Fuji S, Inoue Y, Utsunomiya A, Moriuchi Y, Uchimaru K, Choi I, Otsuka E, Henzan H, Kato K, Tomoyose T, Yamamoto H, Kurosawa S, Matsuoka KI, Yamaguchi T, Fukuda T. Pretransplantation Anti-CCR4 Antibody Mogamulizumab Against Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma Is Associated With Significantly Increased Risks of Severe and Corticosteroid-Refractory Graft-Versus-Host Disease, Nonrelapse Mortality, and Overall Mortality. J Clin Oncol. 2016 Oct 1;34(28):3426-33.**

2. **Sakura Aoki, Sanaz Firouzi, Yosvany López, Tadanori Yamochi, Kazumi Nakano, Kaoru Uchimaru, Atea Utsunomiya, Masako Iwanaga, Toshiki Watanabe. Transition of adult T-cell leukemia/lymphoma clones during clinical progression. Int J Hematol. 2016 Sep;104(3):330-7.**
3. **Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Yamaguchi K, Watanabe T. Dysregulation of c-Myb pathway by aberrant expression of proto-oncogene MYB provides the basis for malignancy in adult T-cell leukemia/lymphoma cells. Clin Cancer Res. 2016 Dec 1;22(23):5915-5928.**
4. **Fujikawa D, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Yamagishi M* (*corresponding author), Watanabe T. Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia. Blood. 2016 Apr 7;127(14):1790-802. doi: 10.1182/blood-2015-08-662593. Epub 2016 Jan 15.**
5. **Kamoi K, Nagata Y, Mochizuki M, Kobayashi D, Ohno N, Uchimaru K, Tojo A, Ohno-Matsui K. Formation of Segmental Rounded Nodules During Infiltration of Adult T-Cell Leukemia Cells Into the Ocular Mucous Membrane. Cornea. 2016 Jan; 35(1):137-9.**
6. **Kuramitsu M, Okuma K, Yamochi T, Sato T, Sasaki D, Hasegawa H, Umeki K, Kubota R, Sobata R, Matsumoto C, Kaneko N, Naruse I, Yamagishi M, Nakashima M, Momose H, Araki K, Mizukami T, Mizusawa S, Okada Y, Ochiai M, Utsunomiya A, Koh KR, Ogata M, Nosaka K, Uchimaru K, Iwanaga M, Sagara Y, Yamano Y, Satake M, Okayama A, Mochizuki M, Izumo S, Saito S, Itabashi K, Kamihira S, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Standardization of Quantitative PCR for Human T-cell Leukemia Virus Type 1 in Japan: A**

- Collaborative Study. *J Clin Microbiol.* 2015 Nov;53(11): 3485-91.
7. **Ishitsuka K, Yamano Y, Utsunomiya A, Uchimaru K.** [A survey of HTLV-1 carrier clinics in Japan]. *Rinsho Ketsueki.* 2015 Jun;56(6):666-72.doi:10.11406/rinketsu.56.666.
 8. **Kobayashi S, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Nakano K, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K.** Advanced human T-cell leukemia virus type 1 carriers and early-stage indolent adult T-cell leukemia-lymphoma are indistinguishable based on CADM1 positivity in flow cytometry. *Cancer Sci.* 2015 May; 106(5):598-603. doi: 10.1111/cas.12639. Epub 2015 Mar 20.
 9. **Ishigaki T, Zaïke Y, Nojima M, Kobayashi S, Ohno N, Uchimaru K, Tojo A, Nakauchi H, Watanabe N.** Quantification of adult T-cell leukemia/lymphoma cells using simple four-color flow cytometry. *Clin Chem Lab Med.* 2015 Jan 1;53(1):85-93. doi: 10.1515/cclm-2014-0183.
 10. **Kawamata T, Ohno N, Sato K, Kobayashi M, Jo N, Yuji K, Tanosaki R, Yamano Y, Tojo A, Uchimaru K.** A case of post-transplant adult T-cell leukemia/lymphoma presenting myelopathy similar to but distinct from human T-cell leukemia virus type I (HTLV-I)-associated myelopathy. *Springerplus* 2014 Oct 4;3:581.
 11. **Takahashi R, Yamagishi M, Nakano K, Yamochi T, Yamochi T, Fujikawa D, Nakashima M, Tanaka Y, Uchimaru K, Utsunomiya A, Watanabe T.** Epigenetic deregulation of Ellis Van Creveld confers robust Hedgehog signaling in adult T-cell leukemia. *Cancer Sci.* 2014 Sep;105(9):1160-9.
 12. **Kobayashi S, Nakano K, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Oyaizu N, Asanuma S, Yamagishi M, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K.** CADM1 expression and stepwise downregulation of CD7 are closely associated with clonal expansion of HTLV-I-infected cells in adult t-cell leukemia/lymphoma. *Clin Cancer Res.* 2014 Jun 1;20(11):2851-61.
 13. **内丸 薫 ; 特集 : 成人 T 細胞白血病 (ATL)研究の現状 1 HTLV-1 感染症と ATL の研究・診療新時代.血液フロンティア** 26(4):17-20(2016)
 14. **Satake M, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T, Okuma K, Hamaguchi I.** Incidence of new HTLV-1 infections among adolescents and adults in Japan: a nationwide retrospective cohort analysis of repeat blood donors. *Lancet Infectious Diseases* 16(11):1246-1254, 2016.
 15. **Kondo H, Soda M, Sawada N, Inoue M, Imaizumi Y, Miyazaki Y, Iwanaga M, Tanaka Y, Mizokami M, Tsugane S.** Smoking is a Risk Factor for Development of Adult T-cell Leukemia/Lymphoma in Japanese Human T-cell Leukemia Virus Type-1 Carriers. *Cancer Causes Control.* 27(9):1059-66, 2016.
 16. **Aoki S, Firouzi S, Lopez Y, Yamochi T, Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Iwanaga M, Watanabe T.** Transition of adult T-cell leukemia/lymphoma clones during clinical progression. *Int J Hematol* 104(3):330-7, 2016.
 17. **Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Shimamura T, Yasunaga JI, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Nagae G, Ishii R, Muto S, Kotani S, Watatani Y, Takeda J, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Iwanaga M, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Ogasawara H, Sato T, Sasai K, Muramoto K, Penova M, Kawaguchi T, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Yoon SS, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Takeuchi K, Nureki O, Aburatani H, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S:** Integrated molecular analysis of

- adult T cell leukemia /lymphoma. *Nat Genet* 47 (11): 1304-1315, 2015.
18. **Takemoto S, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T: Plasma soluble CD30 as a possible marker of adult T-cell leukemia in HTLV-1 carriers: a nested case-control study. *Asian Pac J Cancer Prev* 16(18): 8253-8258, 2015.**
 19. **Aoki S, Firouzi S, Yamochi T, Nakan K, Uchimaru K, Utusnomiya A, Iwanaga M, Watanabe T: Transition of ATL/L cell clones can be observed during the clinical course. *Int J Hematol* Accepted 2015. Nov In-press.**
 20. 井上由紀子, 守田麻衣子, 後藤信代, 相良康子, 入田和男, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 岩永正子, 浜口功, 清川博之. HTLV-1 キャリアが産生するウイルス構造蛋白質に対する抗体と末梢血中のプロウイルス量に関する解析. 日本輸血細胞治療学会誌第 60 巻第 6 号 pp592-599, 2014 年 12 月.
 21. 岩永正子; 特集: 成人 T 細胞白血病 (ATL) 研究の現状 1HTLV-1 感染症の疫学とコホート研究. 血液フロンティア 26(4):17-20(2016).
 22. 岩永正子. 生涯教育シリーズ: HTLV-1 感染症. 長崎市医師会報 592 (6): 30-36, 2016.
 23. **Yamano Y, Coler-Reilly A. HTLV-1 induces a Th1-like state in CD4+ CCR4+ T cells that produces an inflammatory positive feedback loop via astrocytes in HAM/TSP *Journal of Neuroimmunology*, In Press, 2016.**
 24. **Coler-Reilly ALG, Yagishita N, Suzuki H, Sato T, Araya N, Inoue E, Takata A, Yamano Y.**
 25. **Nation-wide epidemiological study of Japanese patients with rare viral myelopathy using novel registration system (HAM-net). *Orphanet J Rare Dis*, 11(1):69, 2016.**
 26. **Yasuma K, Matsuzaki T, Yamano Y, Takashima H, Matsuoka M, Saito M. HTLV-1 subgroups associated with the risk of HAM/TSP are related to viral and host gene expression in peripheral blood mononuclear cells, independent of the transactivation functions of the viral factors. *J Neurovirol.* 22(4):416-30, 2016.**
 27. 新谷奈津美, 佐藤知雄, アリエラ・コラライリー, 八木下尚子, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の分子病態解明による治療薬開発の新展開. *Jpn J Clin Immunol*, 39 (3):207-212, 2016.
 28. 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症の病態に基づいた疾患修飾薬の開発. *Modern Physician*, 36(7):682-687, 2016.
 29. 山野嘉久. HAM に対するヒト化 CCR4 抗体の医師主導治験. 臨床評価, 43(2):418-421, 2016.
 30. 山野嘉久. 痙性対麻痺 (HAM を含む). 今日の治療指針 2016. 山口 徹, 北原光夫 監修. P964-965, 医学書院, 東京, 2016.
 31. **Ishihara M, Araya N, Sato T, Saichi N, Fujii R, Yamano Y, Sugano S, Ueda K. A plasma diagnostic model of human T-cell leukemia virus-1 associated myelopathy. *Ann Clin Transl Neurol*, 2(3):231-240, 2015.**
 32. **Martin F, Inoue E, Cortese ICM, de Almeida Kruschewsky R, Adonis A, Grassi MFR, Galvão-Castro B, Jacobson S, Yamano Y, Taylor GP, Bland M. Timed walk as primary outcome measure of treatment response in clinical trials for HTLV-1-associated myelopathy: a feasibility study. *Pilot and Feasibility Studies* 2015, 1:35, 2015.**
 33. **Yasuma K, Matsuzaki T, Yamano Y, Takashima H, Matsuoka M, Saito M. HTLV-1 subgroups associated with the risk of HAM/TSP are related to viral and host gene expression in peripheral blood mononuclear cells, independent of the transactivation functions of the viral factors. *J Neurovirol.* 2015. [Epub ahead of print]**
 34. **Bangham C, Araujo A, Yamano Y & Taylor G. HTLV-I-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. *Nature Reviews Disease Primers*, 1, 2015.**
 35. **Yamano Y. How does human T-lymphotropic virus type 1 cause central nervous system disease? The importance of cross-talk between infected T cells and astrocytes. *Clin Exp Neuroimmunol*, 6(4):395-401, 2015.**

36. **山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) - 分子病態解明による治療薬開発の新展開. 医学のあゆみ, 255(5):485-490, 2015.**
37. **山野嘉久. HAM に対するヒト化 CCR4 抗体の医師主導治験. 臨床評価, 43(2):418-421, 2016.**
38. **石塚賢治, 山野嘉久, 宇都宮與, 内丸薫. HTLV-1 キャリア外来の実態調査. 臨床血液, 56(6):666-672, 2015.**
39. **山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 力石辰也, 山野嘉久, 柴垣有吾. HTLV-1 陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する HAM の特徴. 日本透析医学会雑誌, 48(1):483, 2015.**
40. **山野嘉久, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄. 免疫性神経疾患 - 基礎・臨床研究の最新知見 -. 日本臨牀, 73 (7) : 546-553, 2015.**
41. **山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). 難病事典, 2-5, 2015.**
42. **山野嘉久. 瘻性対麻痺 (HAM を含む). 今日の治療指針 2016. 山口徹, 北原光夫監修. P964-965, 医学書院, 東京, 2016.**
43. **Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Ando H, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Shibagaki Y, Nishioka K, Nakajima T, Hasegawa Y, Utsunomiya A, Kimura K, Yamano Y. Anti-CCR4 antibody mogamulizumab targets human T-lymphotropic virus type I-infected CD8+ as well as CD4+ T cells to treat associated myelopathy. J Infect Dis, 211(2):238-48, 2015.**
44. **齋藤 滋: 妊娠・分娩・産褥時の対応 HTLV-1. 周産期医学, in press.**
45. **齋藤 滋: HTLV-1 キャリア. 周産期医学. 2016;46:1255-1258.**
46. **齋藤 滋: HTLV-I. 「改訂第 2 版 症例から学ぶ周産期診療ワークブック」日本周産期・新生児学会編, メジカルビュー社, 東京, P214-216, 2016.**
47. **齋藤 滋. 感染症 Today 「HTLV-1 母子感染予防に関する最近の話題」. ラジオ NIKKEI 出演. 2016.12.7.**
48. **齋藤 滋. 妊産婦診療における HTLV-1 キャリア検出のための診断の進め方とキャリア妊婦支援の必要性. 日産婦医会報. 2015;67:10-11.**
49. **齋藤 滋. シンポジウム 7 「HTLV-1 母子感染予防」 HTLV-1 母子感染対策協議会の役割と運営. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 51 : 79-82, 2015.**
50. **板橋家頭夫, 齋藤 滋. シンポジウム 7 「HTLV-1 母子感染予防」座長のまとめ. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 51 : 69, 2015.**
51. **齋藤 滋. 母子感染予防に関する最新事情—特に HTLV-1、CMV に関して—ABBOT NEWS. 2015.7.17.**
52. **齋藤 滋. HTLV-1 母子感染予防事業の意義. キャリねっとコラム. 2015.12.3.**
53. **Watanabe T, Sato A, Kobayashi - Watanabe N, Sueoka-Aragane N, Kimura S, Sueoka E. Torin2 Potentiates Anticancer Effects on Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma by Inhibiting Mammalian Target of Rapamycin. Anticancer Res. 2016 Jan;36(1):95-102.**
54. **Katsuya H, Ishitsuka K, Sueoka E (9 番目) et al, Treatment and survival among 1594 patients with ATL diagnosed in the 2000s: a report from the ATL-PI project performed in Japan. Blood. 2015 Dec 10;126(24): 2570-7.**
2. 学会発表
1. **Yamagishi M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tsukasaki K, Araki K, Watanabe T. “Polycomb-Dependent Epigenetic Landscape in Adult T Cell Leukemia (ATL); Providing Proof of Concept for Targeting EZH1/2 to Selectively Eliminate the HTLV-1 Infected Population“. Oral Session:622. Non-Hodgkin Lymphoma: Biology, excluding Therapy: Genomic and Epigenetic Landscapes of Lymphoid Malignancies, Monday, December 7, 2015: 10:45 AM, W311EFGH, Level 3 (Orange County Convention Center), 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5-8, 2015, Orlando, FL, USA. Abstract 572, Blood 126 (23):572, 2015.**
2. **Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga JI, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y,**

- Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S. "Prognostic Relevance of Integrated Genetic Profiling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma". **Poster Session:622. Non-Hodgkin Lymphoma: Biology, excluding Therapy: Genomic and Epigenetic Landscapes of Lymphoid Malignancies, Monday, December 6, 2015: 6:00PM-8:00PM, Hall A, Level 2 (Orange County Convention Center), 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5-8, 2015, Orlando, FL, USA. Abstract 2643, Blood 126 (23):2643, 2015.**
3. **Nosaka K, Iwanaga M, Ishizawa K, Yoji Ishida, Uchimaru K, Ishitsuka K, Amano M, Ishida T, Imaizumi Y, Uike N, Utsunomiya A, Ohshima K, Kawai K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Tsukasaki K. Current Clinico-Epidemiological Characteristics of Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma (ATL) Based on the 11th Nationwide Survey in Japan. 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5-8, 2015, Orlando, FL, USA, Abstract5034 (Publication only), Blood 126 (23):5034, 2015.**
 4. 相良康子, 守田麻衣子, 井上由紀子, 倉光球, 大隈和, 後藤信代, 平山秀明, 岩永正子, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 浜口功, 迫田岩根, 入田和男, 清川博之. 九州の HTLV-1 水平感染の現状と感染初期の産生抗体. **Oral session 1 感染・疫学. O-3 (2015年8月22日) 第2回日本 HTLV-1 学会学術集会. 2015年8月22日~23日, 2015, 東京大学医科学研究所 1号館講堂, 抄録集 p.25, 2015.**
 5. 野坂生郷, 岩永正子, 石澤賢一, 石田陽治, 内丸薫, 石塚賢治, 石田高司, 今泉芳孝, 伊藤薫樹, 宇都宮與, 戸倉新樹, 飛内賢正, 渡邊俊樹, 塚崎邦弘. 第11次 ATL 全国実態調査報告. 第2回日本 HTLV-1 学会学術集会. **Oral session 7 ATL 臨床 1. O-35 (2015年8月23日) 2015年8月22日~23日, 2015, 東京大学医科学研究所 1号館講堂, 抄録集 p.41, 2015.**
 6. **Yasuko Sagara, Masako Iwanaga, Yasuhiro Sagara, Yukiko Inoue, Maiko Morita, Nobuyo Goto, Toshiki Watanabe, Hiroyuki Kiyokawa. Prediction of MHC class II epitopes in HTLV-1 proteins : In silico screening of vaccine candidates. Poster Day2 (November 23 [mon]), Retroviridae other than lentivirus, P2-G-123. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 2015年11月22日~24日, 福岡国際会議場, 福岡市.**
 7. 相良康子, 井上由紀子, 守田麻衣子, 後藤信代, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 岩永正子, 浜口功, 迫田岩根, 入田和男, 清川博之. HTLV-1 キャリアにおける末梢血中のプロウイルス量と保有する HLA との関連. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会第62回総会・第83回例会 (2015年12月22日開催) セッション4 : 副作用・感染症(第2会場) **10:40~11:10, 沖縄県市町村自治会館, 那覇市.**
 8. 岩永正子, 早田みどり. 長崎県における ATL 罹患率の Age-Period-Cohort 解析:1986~2010年. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会, 8月23日(土) **16:20-17:20, Oral Session4, 疫学, O-25, 会場: 東京大学医科学研究所 講堂, 2014年8月22日(金)~24(日), 抄録集, page38.**
 9. 佐竹正博, 相良康子, 岩永正子, 浜口功. 献血者のデータから明らかになった HTLV-1 水平感染の実態. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会, 8月24(日) **13:00-14:00, Oral Session 8, 感染とキャリア支援, O-51, 会場: 東京大学医科学研究所 講堂, 2014年8月22日(金)~24(日), 抄録集, page51**
 10. 武本 重毅, 相良康子, 岩永正子, 渡邊俊樹. HTLV-1 キャリアの可溶性 CD30 血中濃度と成人 T 細胞白血病発症リスク: 症例対照研究. **Poster Session, P-8, 会場: 東京大学医科学研究所 講堂, 2014年8月22日(金)~24(日)**
 11. **Nosaka K, Iwanaga M, Ishizawa K, Ishida Y, Uchimaru K, Ishitsuka K, Amano M, Ishida T, Imaizumi Y, Uike N, Utsunomiya A, Oshima K, Kawai K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Tsukasaki K. A nationwide study of patients with adult T-cell leukemia/lymphoma(ATL) in Japan:2010-2011. 第76回日本血液学会学術集会(JSH2014), 大阪国際会議**

- 場, 2014年10月31日(金)~11月2日(日), 発表: 一般口演 OS-2-118, 2014年11月1日, 抄録集, 臨床血液 2014, 55巻9号 Page1344.
12. 相良康子, 井上由紀子, 守田麻衣子, 後藤信代, 岩永正子, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 浜口功, 相良康弘, 清川博之. HTLV-1 PVLとHLA Class I結合 peptideの乖離時間との関連. 第62回日本ウイルス学会学術集会, パシフィコ横浜, 2014年11月.
 13. Iwanaga M, Soda M. Time Trend and Age-Period-Cohort Effects on the Incidence of Patients with Adult T-Cell Leukemia in a Population-Based Study in Japan, 1991-2010. The 56th ASH Annual Meeting and Exposition (December 6-9, 2014) in San Francisco, CA, Poster II. Sunday, December 7, 2014. Blood 2014; 124(21):2616
 14. Yamano Y. HTLV-1 induces a Th1-like state in CD4+CCR4+ T cells that produces an inflammatory positive feedback loop via astrocytes in HAM/TSP. 40Years of Neuroimmunology, 19-20 April 2015, Bethesda, Maryland, USA.
 15. Yamano Y, Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Akiyama H, Hasegawa Y, Utsunomiya A. Humanized anti-CCR4 antibody KW0761 targets HTLV-1-infected CD4+CCR4+ and CD8+CCR4+ T-cells to treat HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 16. Araya N, Sato T, Tomaru U, Coler-Reilly A, Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi M, Akiyama H, Hasegawa Y, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanaka Y, Utsunomiya A, Jacobson S, Yamano Y. HTLV-1 Tax induces Th1 master regulator T-bet and thus IFN- γ in CD4+CCR4+ T-cells of virus-associated myelopathy patients. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 17. Coler-Reilly A, Yagishita N, Sato T, Araya N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Yamano Y, Takata A. HAM-net national patient registration system reveals details of how Japanese patients with HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis progress over time. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 18. Kimura M, Yamauchi J, Taisho H, Sato T, Yagishita N, Araya N, Sato K, Kikuchi T, Hasegawa Y, Chikaraishi T, Shibagaki Y, Yamano Y. Characteristics of HAM/TSP after kidney transplantation from HTLV-1 positive living donors. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 19. Sato K, Kikuchi T, Kimura M, Komita M, Shimada K, Seki K, Tachibana M, Yagishita N, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Takata A, Yamano Y. Patient Satisfaction Survey for HAM-net Registrants. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 20. Kikuchi T, Sawabe A, Negishi Y, Noda A, Hirai Y, Inoue E, Kimura M, Sato K, Araya N, Yagishita N, Sato T, Yamano Y. Evaluation of clinical outcome measures for HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 21. Yamano Y. How does HTLV-1 cause CNS disease? - The importance of cross-talk between infected T-cells and astrocytes. The Inaugural Asia-Pacific School of Neuroimmunology Meeting [APSNI] (第一回アジア太平洋神経免疫学国際シンポジウム), 30 August 2015, Tokyo, Japan . [Sanjo Conference Hall at The University of Tokyo]

22. 山野嘉久, 山内淳司, 大勝秀樹, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾. **HTLV-1** 陽性ドナーからの生体腎移植による **HAM** の発症率と特徴. [**High incidence of HAM after Kidney transplantation from HTLV-1 positive donors.**], 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日 ~ 23 日, 新潟(新潟市中央区)〔朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)〕
23. 佐藤健太郎, 菊池崇之, 木村未祐奈, 込田みどり, 島田奏, 関来未, 橘茉莉花, 八木下尚子, 佐藤知雄, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 鈴木弘子, 高田礼子, 山野嘉久. 患者レジストリへの介入方法と患者満足度の変化. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日 ~ 23 日, 新潟(新潟市中央区)〔朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)〕
24. 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 菊池崇之, 八木下尚子, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 佐藤知雄, 鈴木弘子, 木村美也子, 高田礼子, 山野嘉久. **HAM** 患者レジストリ「**HAM** ねっと」を活用した経年的前向き調査. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日 ~ 23 日, 新潟(新潟市中央区)〔朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)〕
25. 沢辺愛加, 根岸由衣, 野田和里, 平井祐士, 井上永介, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄, 山野嘉久. 希少難病 **HAM** の臨床的有効性評価指標の検討. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日 ~ 23 日, 新潟(新潟市中央区)〔朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)〕
26. 山内淳司, 柴垣有吾, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 山野嘉久, 力石辰也. **HTLV-1** 陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する **HAM** の特徴. 第 60 回日本透析医学会学術集会・総会, 2015 年 6 月 26 日 ~ 28 日, 横浜〔パシフィコ横浜〕
27. 山野嘉久. 希少難病を知る - 再発性多発軟骨炎の病態 -. 第 20 回日本難病看護学会学術集会, 2015 年 7 月 25 日, 東京(大田区)〔大田区産業プラザ〕
28. 倉光球, 大隈和, 矢持忠徳, 山野嘉久, 長谷川寛雄, 上平憲, 岡山昭彦, 久保田龍二, 出雲周二, 成瀬功, 相良康子, 佐竹正博, 渡邊俊樹, 山口一成, 浜口功. **HTLV-1** 核酸検査の標準化および検出感度の検討: 多施設共同研究. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕
29. 石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, 山野嘉久, 植田幸嗣. 末梢血 **CD4** 陽性 **T** 細胞を用いた膜プロテオーム解析による **HTLV-1** 関連疾患に対する新規治療標的の探索. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕
30. 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾, 湯沢賢治, 山野嘉久. **HTLV-1** 陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植による **HAM** の特徴. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕
31. 佐藤知雄, 安藤仁, 高橋克典, 國友康夫, **Ariella Coler-Reilly**, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. **HTLV-1** 関連脊髄症(**HAM**)における髄液細胞のケモカイン受容体解析. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕
32. 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 八木下尚子, 山野嘉久. **HAM** 患者の思いを知る ~ **SEIQoL-DW**(個人の生活の質評価法)を用いた関わりを通して ~. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕. [ポスター]
33. 八木下尚子, 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 高田礼子, 山野嘉久. **HAM** 患者レジストリ「**HAM** ねっと」の経年的患者満足度調査. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕. [ポスター]
34. 尋田まや子, 佐々木光穂, 平田誠, 樋野村亜希子, 坂手龍一, 西下直希, 山野嘉久, 吉良潤一, 小原有弘, 松山晃文. 難病バンクにおける **HLA** タイピング導入による難病研究推進. 第 24 回日本組織適合性学会, 2015 年 9 月 10 日 ~ 12 日, 茨城(水戸市)〔ホテル レイクビュー水戸〕
35. 山野嘉久. 希少難病 **HAM** 患者レジストリー「**HAM** ねっと」の臨床研究・治験への応用 ~ 運営事務局の立場から ~. 第 15 回 **CRC** と臨床試験のあり方を考える会議 2015 in KOBE. 2015 年 9 月 12 日, 兵庫(神戸市中央区)〔神戸国際会議場〕
36. 山野嘉久. **HAM** の治療展望. 第 27 回日

- 本神経免疫学会学術集会, 2015年9月15~16日, 岐阜(岐阜市)〔長良川国際会議場〕
37. 山野嘉久. 臓器移植後に伴うHTLV-1関連疾患発症の実態について. 第9回HTLV-1対策推進協議会, 2015年9月30日, 東京(東京都千代田区)〔厚生労働省〕
 38. 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)に対する抗CCR4抗体療法の開発. 第43回日本臨床免疫学会総会, 2015年10月22日~24日, 兵庫(神戸市中央区)〔神戸国際会議場〕
 39. 山野嘉久. HAMに対する日本発の革新的治療となる抗CCR4抗体の実用化研究. 革新的医療技術創出拠点プロジェクト統合戦略会議, 2015年11月10日, 東京(東京都千代田区)〔日本医療研究開発機構〕
 40. 山野嘉久, 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 湯沢賢治. HTLV-1陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植によるHAMの特徴. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
 41. 佐藤知雄, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. HAMの進行度の特徴と関連バイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
 42. 玉木慶子, 津川潤, 佐藤知雄, 山野嘉久, 坪井義夫. HAMにおける治療効果を予想するバイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
 43. 齋藤 滋: HTLV-1 母子感染の現状と課題. 第46回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会. 2015.11.7, 富山. (招待講演)
 44. 齋藤 滋: HTLV-1 感染予防 Up to date—産婦人科医・小児科医・保健師が協力して行う母子感染予防—. 平成27年度 HTLV-1 対策医療従事者等研修会. 2015.10.10, 岩手. (招待講演)
 45. 齋藤 滋: 講義「HTLV-1の現状と助産師の役割」. 日本看護協会 研修. 2015.6.25, 神戸.
 46. 末岡榮三朗. HTLV-1 感染の現状 第64回日本医学検査学会 2015,5,16-17
 47. 末岡榮三朗. フローサイトメトリー法によるHTLV-1関連疾患のモニタリングの試み 第62回日本臨床検査医学会学術集会 2015,11,19-22
 48. 末岡榮三朗, 渡邊達郎, 荒金尚子, 木村晋也. ATP競合性mTOR阻害剤Torin2はG1細胞周期停止を介して成人T細胞白血病細胞株の生育を抑制する 第74回日本癌学会学術総会 2015, 10,8-10
 49. 末岡榮三朗, 渡邊達郎, 進藤岳郎, 内丸薫, 木村晋也. Association of CADM1/TSLC-1 positive fraction with clinical parameters in HTLV-1 infected patients. 第78回日本血液学会学術集会 2015,10,16-184
 50. 田野崎隆二, 崔日承, 下坂元継, 宇都宮與, 徳永正人, 中野信行, 福田隆浩, 中前裕久, 竹本茂樹, 楠本茂, 友寄武昭, 末岡榮三朗, 白土基明, 末廣陽子, 山中武春, 岡村純, 鷓池直邦. 成人T細胞白血病リンパ腫に対するフルダラビンとブスルファンを用いた減量前処置法による血縁者間末梢血幹細胞移植: 多施設第相臨床試験の結果 第37回日本造血細胞移植学会総会 2015,3,5-7
 51. 渡邊達郎, 荒金尚子, 進藤岳郎, 木村晋也, 末岡榮三朗. ATP競合性mTOR阻害剤Torin2によるATL細胞株におけるAktのリン酸化抑制と生育阻害 第2回日本HTLV-1学会学術集会 2015,8,22-23.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし